

令和5年度

第2回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和5年4月21日(金)
開会15時25分 閉会16時30分

場 所 教育委員室

令和5年度 第2回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 大分県立図書館協議会委員の任命について

第2号議案 大分県社会教育委員の委嘱について

(2) 報 告

① 地域との協働による高校魅力化推進事業について

② 令和5年度大分県立高等学校入学者選抜結果について

③ 令和4年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について

④ 令和5年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について

(3) 協 議

① 令和6年度（令和5年度実施）教員採用選考試験実施要項（案）について

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	岡 本 天津男
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
事務局	理事兼教育次長	渡 辺 登
	教育次長	三 浦 一 雄
	教育次長	武 野 太
	参事監兼特別支援教育課長	升 井 淳 二
	教育改革・企画課長	重 親 龍 志
	教育人事課長	大 和 孝 司
	高校教育課長	山 田 誠 司
	社会教育課長	森 山 貴 仁
	教育改革・企画課 総務企画監	小 野 裕 二
	教育改革・企画課 主幹 (総括)	新 貝 隆
	教育改革・企画課 主査	長 山 佳 史
	教育改革・企画課 主任	久知良 周平

2 傍聴人

5 名

開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

それでは、ただ今から、令和5年度第2回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、鈴木委員にお願いします。

会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は16時20分を予定していますので、よろしくをお願いします。

議 事

(岡本教育長)

会議は原則として公開することとなっておりますが、第1号議案、第2号議案及び協議①は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第1号議案、第2号議案及び協議①は、非公開といたします。

(岡本教育長)

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

【報 告】

① 地域との協働による高校魅力化推進事業について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「地域との協働による高校魅力化推進事業について」、高校教育課長から説明をしてください。

(山田高校教育課長)

地域との協働による高校魅力化推進事業について報告します。

平成28年度から始まった本事業も今年度で8年目を迎え、令和4年度は18校が採択されています。地域貢献に積極的に関わる人材育成を目的とした「地域の課題探究」、高校生が地域行事に積極的に参加し、地域の活性化に貢献する「地域の活力創出」、地域の小・中学校と連携し、学習の成果を発表する「地域の学び連携」の3つのプロジェクトを通して、学校の魅力・特色づくりに取り組んでいます。

本日は、資料の下段にありますように、2つの取組事例を動画にて紹介します。

前半は、課題解決の手法を学ぶための講座の様子について、宇佐高校及び由布高校の取組を事例として紹介します。両校は、デザイン思考による問題解決に向けた探究講座を委託事業により実施しています。プロデューサーやクリエイターが実際にアイデア創出のために用いるプロセスを学び、課題発見や解決に活用してもらおうとするものです。具体的には、自校の魅力を6秒や15秒の動画で表現し、地域に発信する創作活動に取り組みました。その他に、由布高校では、新商品のアイデアを企業に提案する講座なども実施され、生徒は問題解決に向けてのアイデア創出の手法を学びました。地域と直接的に関わっている動画となっていませんが、生徒の様子をご覧いただきたいと思えます。

後半は、由布高校の生徒が講師となって、地域の小・中学生に対して行ったドローンプログラミング教室の様子の動画になります。どのように教えれば、小・中学生に理解してもらえるかを生徒自身が主体的に考えて実践しており、生徒の成長につながっています。

それでは、取組をまとめた動画をご覧ください。

＜動画説明＞

今後も、各学校の取組を支援し、魅力・特色ある学校づくりを推進するとともに、その中で得た成果等を生徒が大学入試等に活用されることを期待しています。以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

企業とコラボレーションして、実際に社会に出る前に高校生が今回のような経験をすることは、非常に良い取組だと思います。企業側としても、面白い意見や大人の頭では考えつかないような発想を高校生から提案されると、採用したくなります。そのことが、鳴門うどんのメニューの採用にも繋がったのだと思います。引き続き企業と連携をし、地域連携も含めて、考えてもらいたいと思います。

(林委員)

様々なクリエイターの方が関わっているということですが、県内のクリエイターですか。それとも世界的なクリエイターですか。どのような人を発掘し、一緒に関わっていますか。

(山田高校教育課長)

基本的には、県内の事業所をお願いをしています。その中に様々なプロデューサーやクリエイターが集まっている組織がありますので、活用しています。

(岩武委員)

事業のねらいに、中学生に選ばれる魅力ある学校づくりとありますが、今年の入試でどのような成果がありましたか。あわせて事業の内容と中学生の志望数増が、どのように結びついたか教えてください。

(山田高校教育課長)

由布高校については、先程の動画の中にありましたが、湯布院中学校でドローンプログラミング教室を開催し、湯布院中学校から由布高校への希望者が増え、連携率が上がったという実績があります。全体の志願者数は大きく変わっていませんが、今回のような取組をした中学校から志願者が増えているということが考えられます。

宇佐高校については、苦戦をしています。コロナの影響で中学校になかなか出向けておらず、良い取組がこの数年は校内で完結しております。今年度は、様々な中学校に出向き、連携する機会が増えると思いますので、今後の推移を見守りたいと考えています。

(鈴木委員)

竹田高校が十年ぶりに入学定員を満たしたと思いますが、この高校魅力化推進事業が影響していますか。

(山田高校教育課長)

竹田高校については、地域や地元自治体と連携しながら探究的な学びを行い、地域の課題解決として、様々なアイデアを出して市に提言するとともに、中学校と連携し、中学生の学びを高校生がサポートするなどの取組をしています。その

ような取組により、中学生や中学校の先生の竹田高校の理解が進んだのではないかと捉えています。

② 令和5年度大分県立高等学校入学者選抜結果について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第2号「令和5年度大分県立高等学校入学者選抜結果について」、高校教育課長から説明をしてください。

(山田高校教育課長)

「令和5年度大分県立高等学校入学者選抜結果について」報告します。

まず、資料1ページ上の〔全日制〕の表をご覧ください。

表の一番上の欄が令和5年度入試における結果であり、比較として、その下の欄に令和4年度入試の結果を示しています。また、各入試ごとの人数と最終合格者の合計をまとめています。

令和5年度の欄をご覧ください。全体の入学定員7,040人に対し、最終合格者数は6,662人でした。合格者数が入学定員に満たない欠員の人数は390人、学校数は21校でしたが、昨年度と比べると人数としては109人の減、学校数としては3校の減ということで、欠員状況が解消の傾向にあり、地域の学校の様々な取組の成果と捉えています。

次に、〔定時制〕の表をご覧ください。

全体の入学定員440人に対し、()内の数は爽風館高校の秋季募集人数を除いた数を示しています。最終合格者数は144人でした。

資料2ページをご覧ください。

学校・学科ごとの入学定員、合格者、欠員の状況を示しています。欠員欄の()内の数字は、学校単位での昨年度の欠員数を表しています。国東高校では、今年度から始まる「宇宙STEAM探究」を中心とした宇宙の学び等、新たな取組を積極的に情報発信し、学校全体として欠員数が大幅に減少しました。また、竹田高校では、地域との連携を密にしながら地域課題の探究学習を行い、解決策を市に提言するなど、地域に根ざした取組を進める中、10年ぶりに定員を充足しました。この他にも、着実に欠員数が減少している高校もあり、今後も地域との協働による高校魅力化推進事業等を活用し、地域と連携した取組を推進していきます。

続いて、資料3ページの「令和5年度 大分県立高等学校第一次入学者選抜学力検査結果」について報告します。出題に際しては、各教科とも知識及び技能とともに、思考力、判断力、表現力を十分に測ることができるように問題を工夫しています。

上の表「学力検査点等の状況」をご覧ください。

各教科の平均点、最高点、最低点を教科ごとに示しています。全ての教科とも60点満点です。令和5年度の結果は、全体の平均点が144.5点、最高点が286点、最低点は20点となっています。平均点については、下に参考として示した過去5年間の平均点よりも、やや低めとなっています。

その下の表「教科別学力検査点の分布状況」をご覧ください。これは、各教科の分布状況を示したものです。50点以上の生徒の割合が最も高い英語では全体の約10%を占めている一方で、最も低い社会では約2%となっております。また、英語は10点未満の生徒の割合が12%以上で最も高い状況となっています。今後、結果の詳しい分析を行い、6月に分析冊子として最終的に報告をするように考えています。また、その結果を中学校や高校の分析会等で使用し、連携の推進につなげていきたいと思えます。

一番下の表は「学力検査合計点の分布状況」となっております。

今後も各教科の目標に即した問題を作成し、適切な選抜が実施できるように努めていきます。

以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(林委員)

高校入試の問題の作成について、様々な配慮がされていますが、例えば小学校や中学校の全国学力調査の問題の傾向や、教科書の内容が変わり、SDGsの内容が入るなどについては、高校入試に今後反映されると考えてよいですか。

(山田高校教育課長)

新しい学習指導要領の趣旨に沿った問題作成に努めていますし、その中で学力調査の傾向や趣旨についても、軌を一にするものだと考えています。

(岩武委員)

国語が易しめという感じがします。また、英語の平均点が27.4点で、そこまで悪い平均点ではないと思っていますが、依然として10点未満の生徒の割合が12%とかなり多くなっています。このことは以前からの課題ですが、なかなか解消されません。小学校では外国語が教科化され、基礎力はあるのではないかと思っていますが、結果が変わらないというのは、どの部分に原因があると考えていますか。

(山田高校教育課長)

今後分析をしていく予定ですが、英語については、2つのピークがある状況です。低得点者については、一番の大きな課題だと認識しています。分析が終わり次第、中学校と高校の先生が合同で協議する場がありますので、今年度はテーマ

を絞って、低得点者層に対しての指導はどうあるべきかということを考えていきたいと思います。

(岩崎委員)

平均点を見ると、社会の点数が一番低くなっています。分布を見ると、10点から19点のところと、20点から29点のところに大きな塊があります。例年と比べた場合、社会の点数の分布状況や平均点から見ると、どのような違いがありますか。違いがある場合は、なにが原因と考えられますか。

(山田高校教育課長)

昨年度は思考力・判断力を問う問題が増え、今年も少し増えています。一問一答のような、知識をストレートに聞く問題が少し減っています。我々としては、思考力・判断力と知識をバランスよく見る必要がありますので、今後の作問においては、メリハリを考えながら、分布が適正になるように努力をしていきたいと思っています。

(岩崎委員)

問題の作り方が原因の1つといえるようですが、例年と比べて生徒の社会についての理解力が少し下がっているという認識ですか。それともあまり変わっていないのですか。

(山田高校教育課長)

全体としては、昨年よりも下がっています。先程、問題作成の話をさせていただきましたが、新しい学習指導要領のもと、中学校で社会をどのように学んでほしいかということは、中学校と高校の合同の会議等において共通認識を図りたいと考えています。

(岩崎委員)

例年よりも入学者選抜結果を見ると、少し厳しい結果であると評価しており、教育委員会としても対応をしていくということですね。今後も頑張ってください、特に思考力・判断力を問う問題に対しても対応できるようにしていただきたいと思っています。

③ 令和4年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第3号「令和4年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について」、特別支援教育課長から説明をしてください。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

令和5年3月卒業の特別支援学校高等部の進路決定状況及び一般就労率について、報告します。

資料をご覧ください。

上段【資料1】に、県内特別支援学校17校の卒業生全体の進路先の割合を示しています。昨年度は、17校で計206名の生徒が卒業をしました。企業等への就職は55名で、これは前年度から4名の増加となります。

次に、【資料2】をご覧ください。

知的障がい特別支援学校卒業生のうち、一般就労した生徒の割合「一般就労率」を示しています。知的障がい特別支援学校の企業等への就労者数は50名で、前年度から9名の増加でした。一般就労率は28.2%で、前年度比3.6ポイントの増となりました。就労先としては、部品の組み立てなどの製造業に22名、接客・清掃・小売等のサービス業に20名、農業に5名、病院や介護施設等の業務・介護補助に3名となっています。

続いて、【資料3】をご覧ください。

こちらは、知的障がい特別支援学校の高等部3年生が一般就労を希望した割合「一般就労希望率」と、そのうち希望を達成できた生徒の割合「希望就労達成率」を示しています。一般就労希望率は32.2%で、昨年度比4.7ポイントの増となりました。近年の中では高い数値となっています。

一方、希望就労達成率は87.7%で、昨年度比1.4ポイントの減となりましたが、3年連続で高い水準を維持しています。これは、ジョブ・コンダクターと連携しながら、丁寧に対応してきた成果だと捉えています。

しかし、大分県長期教育計画の目標値である、令和6年度高等部卒業生の一般就労率33%を達成するためには、一般就労希望率の低さが最も大きな課題であると捉えています。キャリア教育の視点からの教育課程・授業の改善や教職員、保護者及び本人の就労への意識を高める取組を進め、一般就労を希望する生徒を増やしていく必要があります。

そのために進路実現戦略会議を実施し、昨年度の一般就労希望率が向上した学校の好事例を共有することで、各校の取組を支援していきます。また、保護者向け就労意識向上講習会を実施し、一般就労への理解と啓発を図り、保護者の不安を払拭する情報提供等の取組も進めていきます。

そして、もう一つの課題である希望就労達成率のさらなる向上に向けては、各校が策定する系統的な進路指導の計画をもとに、管理職や学部主事とともに、組織的な課題解決に努めていきます。

また、さくらの杜高等支援学校のセンター的機能を活用し、授業・実習等のコンテンツや、ウェブ配信を活用した授業改善、特別支援学校の生徒を対象にした合同就職説明会を実施していきます。

さらに、各校でワーキングフェアを実施し、現場実習の受入や雇用実績のない企業に対して積極的に参加を呼びかけ、生徒の実態を広く知っていただく場を設定します。

このような取組を継続的に進め、一般就労率の向上につなげていきます。
以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

一般就労希望者が減少しています。障がい者雇用をしていない企業からすると、特別支援学校の生徒の実態をあまり分かっていないこともあると思います。インターンシップ等を行っていると思いますが、運動会等の学校行事に企業の代表や雇用担当を招待するといったことも考えられる方策だと思います。

また、特別支援学校から発信しても、なかなか伝わらないことがあると思いますので、地域の商工会議所等への呼びかけも必要ではないでしょうか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

コロナも落ち着き、学校に地域の方々を受け入れる体制が整いつつあります。ワーキングフェアをはじめ、ジョブ・コンダクターを中心に様々な企業に呼びかけています。また、中小企業家同友会からも来ていただいていますので、更に商工会議所等にも呼びかけていきたいと思っています。

(岩崎委員)

一般就労が元々難しいと判断されるような生徒はどれぐらいの割合でいるのですか。知的障がいのある生徒では一般就労希望者の9割近くが一般就労できていると考えてよいのですか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

福祉的就労でないと難しい生徒はいます。私たちが一般就労を目指す生徒として主に考えているのは、療育手帳のB2と判定されている生徒です。B2は軽度と判定された数値となります。しかし、B2だからといって就労できるというわけでもありません。卒業生の中でB2の人数については確認しますが、一定数いますので、実態を見ながら、進路支援をしていきたいと考えています。

(岩崎委員)

一般就労希望率が高い時で37%あります。それに9割をかけると33%ぐらいです。つまり37%ぐらいの生徒が一般就労を望まないと目標値を超えることができません。この37%という数字は、一般就労希望率として現実的なものであると考えてよいのですか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

実績を見ると、9割弱の希望就労達成率です。現在の高等部2年生の一般就労

希望率は43%程度です。逆に、今年度の高等部3年生の一般就労希望率は非常に低く、22%程度です。年度によって違いがあり、予測は難しい状況です。

(岩崎委員)

企業側も様々な部分で協力する姿勢をとっており、できるだけ生徒が社会に出ることができるよう、ノーマライゼーションできるような体制づくりをしていますので、よろしくお願いします。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

更に進めていきたいと思います。

(岩武委員)

一般就労希望者が57名とありますが、この数字はどのように捉えたらよいですか。以前に比べて、生徒数が増えているので、割合としては減っているということですか。つまり、一般就労希望者数が増えても、生徒数が増えれば、割合としては低くなることもありますか、いかがですか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

分母の生徒数が違うので、一般就労希望者が増えても、率が下がる可能性があります。

(岩武委員)

一般就労希望者数の推移を知りたいので、もし分かれば教えてください。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

調べて回答します。

(岩武委員)

一般就労生徒数が増えているのであれば、割合はそこまで気にしなくてよいのではと思います。指標となっているので、意識をしないとイケませんが、40名程度であったのが、57名に増えていけば、望ましい状況にあるのではないかと思います。

(高橋委員)

肢体不自由の生徒で一般就労した生徒数を教えてください。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

別府支援学校には、肢体不自由の生徒と病弱の生徒がいますが、一般就労した5名は全て病弱の生徒になります。肢体不自由の生徒については、大学進学の名1名となっています。

(鈴木委員)

特別支援学校の生徒を3年程職場体験で受け入れた経験がありますが、生徒によって違いがあり、個々の対応が必要になってきます。生徒の実態の違いを考えると、目標値が本当によいのかと思います。私は、一般就労が必ずしもよいとは思っていません。生徒本人の希望が叶うことの方が大事だと思っています。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

先日、進路指導主任が集まった会議の中で、生徒の願いや夢、希望を大事にしてほしい、大人の都合で進路を決めないでほしいと伝えました。高等部2年生の終わりに進路を決めてしまうのではなく、最後まで生徒の願いに沿った支援を行い、伸ばしてほしいと思っています。生徒の実態を考えずに、一般就労を目指すことは生徒の幸せにつながるとは思っていません。その過程を大事にしてほしいと思っています。

(岩崎委員)

障がいのある生徒がどのようなことが一番幸せなのかということを考えて全力を尽くしていただければと思います。一方で、目標値は全国平均値を基にし、期待値として設定されているものと思われます。目標値を掲げることにより、関係者の方々もこの数値を意識し、達成に向けて努力されています。これからも頑張してほしいと思います。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

これからも目標達成に向けて努めたいと思います。

④ 令和5年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第4号「令和5年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について」、特別支援教育課長から説明をしてください。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

令和5年度県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について報告します。

資料「1 入学者選考結果」をご覧ください。今年度の入学者選考結果を示しています。さくらの杜高等支援学校の入学選考結果は、募集人員32名に対し、31名が受検し、合格しました。

次に、さくらの杜高等支援を除く高等部・専攻科の入学者選考について「(2) 高等部・専攻科」に示しています。法令に定める障がいの程度であることを志願

条件とし、この条件を満たす生徒は合格とすることを基本としており、16校全体で172名の生徒が合格しました。

各学校別に選考状況を見ると、11番の新生支援学校が37名、12番の大分支援学校が31名の受検者・合格者数で、他校に比べて多くなっています。この2校については、高等部に在籍する生徒数が多い状況が続いています。

続いて資料「2 特別支援学校高等部（専攻科除く）への入学者数推移」をご覧ください。この表は、10年間の特別支援学校高等部への入学者の推移を示しています。本年度の入学者数は201名で、前年度と比較し、24名増となります。また、知的障がい特別支援学校への本年度の入学者数については188名で、前年度より25名増でした。

資料「3 知的障がい特別支援学校高等部への入学者数推移」は、知的障がい特別支援学校高等部の入学者数の推移とその内訳を示しています。今年度の188名の入学者の内訳ですが、特別支援学校中学部からの進学生徒は110名です。例年100名前後の生徒が入学しています。

中学校からの入学者については、特別支援学級から入学した生徒が70名であり、特別支援学級の在籍生徒総数からみると、47.6%となっています。割合としては、ここ数年減少傾向にあります。依然、特別支援学級に在籍する生徒の約5割程度の生徒が特別支援学校に進学している状況です。また、通常学級からの進学生徒については前年度より増えています。以上のように、中学校からの入学者については、例年70名から80名程度の生徒が特別支援学校に進学をしています。これは、一人一人の障がいの状態に応じたきめ細かな教育を行うことへの期待が高まっているためと考えています。

以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

中学校から入学している78名の中で、中学生時代に不登校であり、障がい分かって進学したという生徒はいますか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

割合は把握していませんが、受験をした生徒の中に不登校経験者もいます。ただし、知的障がい特別支援学校だと、知的障がいがないと入れないなど、条件があります。

(高橋委員)

中学校からの入学者の内、不登校の生徒数は、はっきりとは分からないということですか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

調査はしていません。

(高橋委員)

もし分かれば、教えてもらいたいと思います。

(林委員)

中学校の特別支援学級や通常の学級から特別支援学校に入学した生徒について、保護者の期待はどのようなところにあると思いますか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

保護者と話したなかでの感覚となりますが、穏やかな環境の中で自分の力を発揮できるようになってほしいという願いがある保護者が結構います。

(林委員)

特別支援学校はどのように応えようとしていますか。中学校に通っていた生徒が特別支援学校に変わるなかで、保護者の期待や不安、生徒の不安も含めて、どのように応えようとしていますか。

(升井参事監兼特別支援教育課長)

中学校では、どちらかという、できない自分を見続けてきた生徒が多いのではないかと思います。それが、特別支援学校では細かに対応することによって、できる自分に変わっていき、自分に肯定的になっていきます。昨年度、私が校長をしていた特別支援学校に、中学校時代はほとんど登校していなかった生徒が数名いましたが、自己肯定感を高める教育が、生徒の登校へと繋がっていったと捉えています。

(岡本教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開の議事でその他、何かありますか。

(岡本教育長)

では、非公開の議事を行いますので、傍聴人は退出してください。

【議 案】

第1号議案 大分県立図書館協議会委員の任命について

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第1号議案「大分県立図書館協議会委員の任命について」提案しますので、社会教育課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。
ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

第1号議案の承認についてお諮りします。
承認される委員は、挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第1号議案について、提案のとおり承認します。

第2号議案 大分県社会教育委員の委嘱について

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第2号議案「大分県社会教育委員の委嘱について」提案しますので、社会教育課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。
ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

第2号議案の承認についてお諮りします。
承認される委員は、挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第2号議案について、提案のとおり承認します。

【協 議】

① 令和6年度（令和5年度実施）教員採用選考試験実施要項（案）について

（2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室）

(岡本教育長)

次に、協議第1号「令和6年度（令和5年度実施）教員採用選考試験実施要項（案）について」教育人事課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

今回の協議の結果を踏まえて、準備を進めていきたいと思えます。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

それではこれで、令和5年度第2回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。